

— 広 告 —

KIT
キャンパス
レポート
文・出島二郎
マーケティングプランナー



奥村 林礼 (おくむら もとひろ)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程一年
滋賀県立瀬田工業高等学校出身

課題の多い大学ですが それがぼくを鍛えてくれました。

第一志望は実家から通える大学であったが、受験に失敗し県外へ。奥村さんの入学までの経緯を聞いていると、いくつもの要因が重なっていた。高校の機械や電気の実生が金沢工大出身だったこと。塾の先生が勧めたこと。テレビで金沢工大の番組「物語の始まりへ」を見たことなど。

「母も調べてくれて、面倒見のいい大学らしいと言ったんです。最初は課題が多くて大変だったんですけど、今思えば良かった。専攻のちがう友だちにもたくさん出会って、教えたり教えられたり。それに一人暮らしをして遅くなったと思います。学部一年から土居先生の授業を受けていて、大学院では先生の元でやってみたくて。研究室はドローン、多脚、群ロボ

ットのグループに分かれ、ぼくは群ロボットに属しています。」
土居隆宏准教授の専門は多脚歩行ロボットのソフト/ハードウェア、三次元視覚を利用したインテリジェントな地図生成、多脚メカニズムのドローンへの応用。現在は土木作業用の七トンの大型ロボットの開発に携わっている。

「土居先生は専門以外のことも博識で、趣味も多彩。とても楽しいんです。授業では厳しい表情ですが、学部三年で国内の部品メーカーのインターンシップに参加したので、修士では海外へと。大学コンソーシアム石川のタイ王国インターンシッププログラム2017で、書類と面接によって五人の中に選ばれたんです。二週間、バンコクコマツで就業体験や現地との学生と交流をしてみました。」

「学部卒論は、狭隘不整地を移動するための連結群ロボットの研究で、今はそれを補う形の改良をやっています。郡山で開催された日本機械学会のロボメックで学会発表しましたが、もう一回、どこかでやりたいですね。ただ、就職はロボットではなくて、整備というか、メンテナンスに思っています。機械の分野は広いから。」

奥村さんは、金沢工大の充実した教育・研究環境をフルに活用している。中でも二十四時間開いている自習室は、自分の勉強部屋みたいなものである。そこでは、向学心に燃える仲間たちとの共創教育が展開されているのだ。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七七一
電話番号(〇七六)二四八二〇〇〇